

何（なに）が、何（なん）だか、分りません

1. 他の語が後ろに続く場合

例1) 何人 彼は何人（なにじん）ですか ⇒ ベトナム人です

このクラスには、学生は何人（なんにん）いますか ⇒ 25人です

例2) 何色 交通信号の止まれは、何色（なにいろ）ですか ⇒ 赤です

そのボールペンは、何色（なんしよく）ですか ⇒ 3色です

上記のように、「どのようなものか」を聞く時には「なに」と読み、「いくつか」を聞く場合には「なん」と読む。（例：何個、何回、何冊、何件、何台、何セット、など、数を言う場合には全て「なん」と読む）

例外)

何曜日 「なんようび」と読む。ただし、「なにようび」と読んでもよい。意味は同じ。

元々は「なにようび」であったのが、言い易い「なんようび」に音変化したと考えられる。

2. 単独で使われる場合

「何で」「何でも」「何だ」「何と」「何とも」「何に」は、「なん」と読む。つまり、「何」に続く助詞が「た行」「だ行」「な行」の時には「なん」と読み、他は「なに」と読む。

例) 「何か」「何から」「何を」「何も」は、「なに」と読む。

参考)

(1) 何（なん）にもならない : 元の形は「何（なに）にもならない」である

(2) 何（なん）にも分からない : 元の形は「何（なに）も分からない」である

(3) これは、何（なに）か

(4) これは、何（なん）ですか : (3)の形を丁寧に言うために「です」を付けたため「なん」に変わった。

(5) 何（なん）で来たの ⇒ 自転車で来ました

(6) 何（なん）で来たの ⇒ 用事があったからです

上記では、(5)は「何（なに）で来たのか」、(6)は「何故（なぜ）来たのか」という質問が、話し言葉で「なんで」に変わったと考えられる。